

市民の目線で市民が発信する
地域情報紙

WEB SHIMIN

<http://shimin.camelianet.com/>

SHIMIN PRESS

市民プレス：第24号

発行人 特定非営利活動法人
「市民フォーラム」

編集人 原 昭 二
制作・印刷 デジタル工房
F A X 048 (476) 9111
〒 353-0004
埼玉県志木市本町 5-18-24



新しいまちづくりに繋がるか… 志木駅前の大規模商業施設 「LaLaport」の解体はじまる

シ ネマやお洒落の店
で賑わっていた「ら
らぽーと」が閉店してか
ら半年、夜間には周辺の
広場で暴力を伴った若者
が群れ、物騒な地域になっ
ていて、ここを通過して帰
宅する市民は遠回りを余
儀なくされていた。よう
やく地権者が重い腰を上
げ、既設の建物の解体が
スタートした。施工は地
権者である「三井不動産」
と、「銭高組」、「みらい
建設工業」の三者の手で
行われる。

すでに内部のアスベス
トの調査も済み、除去の
対策もたてられて、10月
24日には、仮囲いの工事
が始まった。引き続き内部
の部材の撤去が行われ、
年明けからは外構の解体
に取り掛かる。工事は
6月中に終了し、ただち
に新規建物の建設が着工
される見込みである。

下の地図に示すよう
に、この建物の大部分は
実は新座市域にあるが、
隣接する
埼玉りそな
銀行は志
木市域とな
る。銀行の
横手からダ
イエーに向
かうタイル
張りの歩道
は、志木
市の市有地
で、植木も
植えられ、
市営の「ふ

れあい公園」の一つとし
て、献血や各種のイベン
トに使われてきた。電飾
が目を惹きつけた大クス
ノキ（公衆で「ららくす」
の愛称がつけられた）は
LaLaportの景観を形作っ
てきた。
またこれに隣接する市
道は商店街に面向してお
り、道路は志木駅の東口
の二つに直結していて、駅
に向かう人々の不法駐輪
が道路を埋める場所なの
で、市当局は手を焼いて
いる。

ここは朝霞市の朝志ヶ
丘にも通じ、志木、朝霞、
新座三市の住民が利用す
る接点となっている。スー
パー「ダイエー」のエント
ランスでもあり、さらに
慶応高校に向かう生徒の
通学路や、近隣の住民の
通勤路にも使われている。

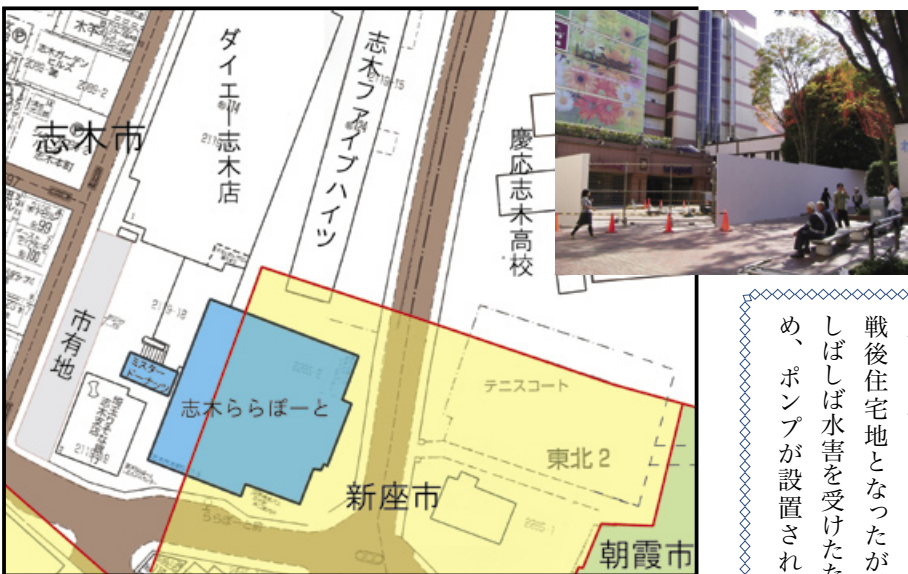
新 規に建設されるビ
ルが住宅を主とする
ものになるか、あるいは
商業施設が含まれるか、
施工主の意向は現在のと
ころ明らかにされてはいな
いが、もちろん市民の利
便性を考慮するとともに、
いままでは華やかに建て
たららばーとの景観をさ
らにリファインした、駅前
に相応しい清々しい建物を
設計、施工されるよう関
係者の努力に期待したい。

余談になるが、らら
ぽーとの所在地は、電力
王、松永安左衛門が開発
した東邦産業研究所の跡
地で、そのエントランスに
なっていた前庭と瀟洒な
建物が建っていたところ
である。この土地が松永
氏によって同研究所から
慶応義塾に寄贈され、の
ちに志木市の開発行為に
より、ダイエーを含む商
業施設が構築されたので
ある。

いまの志木駅舎は新座
市域にあり、志木駅東口
の一角の地番は新座市東
北になっている。志木市
本町はこれに接している。
複雑に入り組んだ両市域
の境界線は歴史的に決
まったものであるが、両
市のまちづくりの障害に
なってしまうのは悩まし
いことになる。



空撮 志木駅周辺



去 る9月4日の午後
7時過ぎ、台風14
号による激しい豪雨が志
木市本町二丁目一帯（田
子山）を襲い、46ミ/時
にも達する降水は道路を
陥没させ、床上、床下
浸水の被害は45所帯にの
ぼった。
ここは、志木・朝霞・
新座市からの雨水が集ま
る地形で、かつては野火
止用水が流れ、新河岸
川に流入していた。その
後用水は途中から分流さ
れて宮戸橋に向かい、水
車の動力としても使われ、
豊かな水田が開かれた。
戦後住宅地となったが、
しばしば水害を受けたた
め、ポンプが設置され、
強制的に新河岸川に排水
する機構が備えられた。
志木市は汚水、雨水の
本管を整備して万全を期
し、また雨水については
自宅敷地内の浸透を住民
に呼びかけてきた。しか
し被害を受けた住民は、
新河岸川の堤防に設けた
遮水ゲート（水門）の開
閉のタイミングに判断の
ミス、またはポンプに整
備不良があったとして、
行政に原因説明を求めて
いる。陳情を受けた志木
市は、水害の原因調査委
員会を設置して調査を進
めている。

被災地は朝霞市側の崖
線との狭間に位置してお
り、志木・朝霞・新座
三市の協力により現在進
められている、田子山地区
（雨水幹線）浸水対策事
業を早期に着工し、一日も
早い対策が望まれている。

地形図
地形を示すため、野火止用
水の水路が記されている明
治二十年代の古地図を使っ
て崖線を示した。

志木、朝霞、新座三市が関わる
志木市本町二丁目の浸水を追う



安齋 達雄



高橋是清は明治二十二
(二八九)年から翌年に
かけて、アンデスの銀山経
営に手をだしたが見事に



失敗した。意気消沈していた高橋を日銀総裁の川田が拾い上げ、当時、日銀本館建設の事務局で準社員として働いていたのである。もちろん、この時は辰野が高橋の上役ということになる。

中央停車場

辰野金吾は、赤レンガに白い石の帯をつけた「辰野式」といわれる建築を多く建てたことで知られる。銀行建築でいえば、佐賀銀行唐津支店、旧二十三銀行本店（現大分銀行）、岩手銀行中之橋支店などがそうである。現在も多くのファンを持つこのスタイルが、もつとも辰野金吾にあった建築だったのかもしれない。

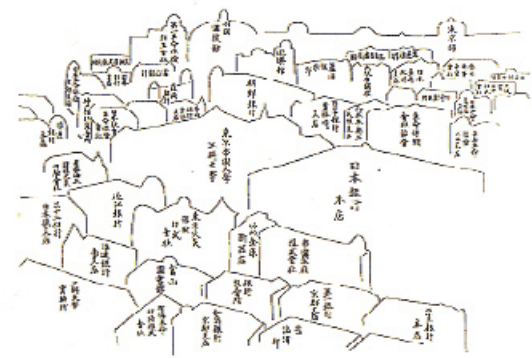
こうした建築の集大成的な意味をもったのが、辰野の後期を代表する「中央停車場（東京駅）」であろう。工事には



「辰野金吾博士『作品集集成図』」

後藤慶二画（辰野家蔵）

右下に日本銀行、右上に東京駅舎が画かれている。



六年の歳月をかけ、完成は辰野が還暦をむかえた大正三（一九四）年である。この駅舎はルネサンス様式で、三つのドームをもつ堂々たる三階建ての建物であった。レンガ建ては地震に弱いといわれながらも、関東大震災の被害はそれほどでもなかった。しかし、昭和二十（一九四五）年五月の空襲で大きな破損をうけた。現在の東京駅は、破損した三階部分を撤去した二階建て建物で、両側の丸いドームも三角屋根となり、終戦直後の応急修理の形が、そのまま残されている。東京駅復元保存を求める市民運動の働きかけもあって、東京駅舎は国の重要文化財に指定され、やがて丸の内側正面の姿が復元される予定である。

三つの夢

辰野金吾には、生涯に三つの建物をつくる夢が

あったという。一つは日本銀行、一つは中央停車場、残る一つは国会議事堂の建設である。国会議事堂の建設は一応公募という形式はとっていたものの、実際は臨時議院建設局の官僚集団によつてつくられたから、辰野が手がけるチャンスはなかった。それにしても、国家の尊厳と威光を代表する建築を手がけたいという辰野の夢は、いかにも使命感にあふれた明治人らしい。

しかし辰野金吾は、権威を背負い、権威にしがみつこうとする人物ではなかったように思われる。そうであれば、安定した工科大学教授・学長という地位を捨てて、リスクがともなう民間設計事務所をおこすことなど、するはずがなからう。これは、お雇い外国人であるにもかかわらず大学から退き、設計事務所をたてて一建築家として生きた恩師コンドルから学んだもので

あろうか。新しい時代を切り開く精神を高橋是清から学んだ辰野は、おのれの天分を生かす精神をコンドルから学んだのかもしれない。

明治から大正へ

また、建築作品からも辰野の心境の変化が伺えるようにも思える。初期の代表作「日本銀行本店」は堂々としているが、要塞にも似た重々しさと暗さを感じられる。しかし、後期の代表作「中央停車場（東京駅）」は、国家の威信をかけた堂々しさはあるものの、赤いレンガに添えられた白い石のアクセントは明るく軽やかだ。

もちろん、明治国家の時代から大正市民の時代への移行は、時代の流れではある。辰野金吾も建築をとおして時代を生きたのだ。

辰野金吾は大正八（一九一九）年三月、六十五歳で生涯を終えた。

なお、東京大学ではじめてフランス文学の講座を開いた文学者として知られた辰野隆（二八八八～一九六四）は、辰野金吾の長男である。この洒落な随筆家として知られる息子の隆が記憶している父親は、謹厳そのものだったという。



いまの東京駅周辺

八重洲の未来図



歩行者デッキと大屋根

CG（コンピュータ・グラフィックス）
で見る完成図



超高層ツインタワーの建設はじまる

生まれ変わる 首都東京の中央駅

丸の内東京駅舎の復元と保存が決まる

八重洲口では

大規模な工事がはじまる

東京駅およびその周辺の整備計画は、東日本旅客鉄道や東京都などの主導によつて関係者間の調整が進み、2006年から2010年にかけて大規模な工事が行なわれる。

第一に丸の内に現存する駅舎をできるだけ保存しつつ、震災によつて損壊した部分を復元、創建された当初の三階建の建物を復活すること、第二に現在もついている駅、ホテル、ギャラリーの機能を維持した利用計画によつて整備するという基本方針が固まった。

一方新しい首都東京のエントランスづくりとして、大掛かりな八重洲口の開発計画がすでにスタートしている。多数の企業の共同事業として進められているこの計画も完成の目標は同じく2010年。

八重洲口駅前広場を挟んだ南北に超高層ツインタワーを建設するとともに、現在八重洲口のエントランスとなつている鉄道会館ビル（大丸デパート）を撤去して、中央部にタワーを結ぶ歩行者デッキと大屋根を設けるという大規模な計画だ。



ツインタワー北棟予定地



ツインタワー南棟予定地



ウイルスの感染経路

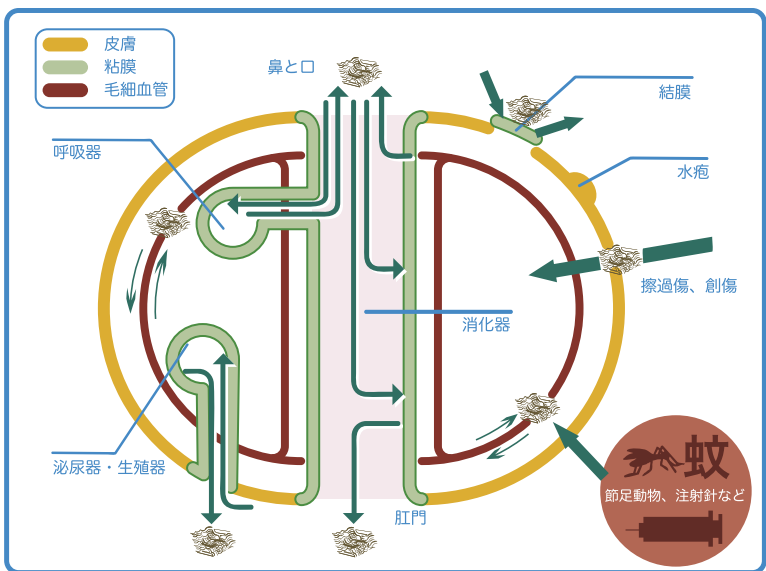
ウイルスは寄生体

ウイルスは生き物に寄生することによって永らえ、増殖します。動物等に感染しなければ増殖できないのです（前回までの記事を参照）。動物などの体外に残されたウイルスは数時間から数日のうちに増殖できなくなり（『死に絶えて』します）。そこで、ある人の体で増えたウイルスは、別の健康な人の体内に侵入し、感染しなければ増殖できないのです。

ウイルスの感染経路

人の体の表面は、皮膚が粘膜に覆われています。皮膚を通してウイルスが侵入することは、ほとんどありません。傷口を介してでなければウイルスは侵入することができません。一方、口、鼻、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器などの表面は粘膜に覆われています。これらの粘膜は直接外界に接しており、ウイルスはこの粘膜から感染します。

※挿絵をご覧ください。



呼吸器による感染

呼吸器感染を起こすウイルスとして代表的なのは、インフルエンザウイルスと麻疹ウイルスです。自然体で起こるのは、呼吸器を介して起こる感染、消化器を介して起こる感染、泌尿器、生殖器を介して起こる感染です。いっぽう皮膚から傷口を介して起こるものとして、蚊やダニのような節足動物に刺されて起こる感染があります。蚊やダニは、毛細血管に針を刺して血を吸うので、その唾液に含まれたウイルスが毛細血管の中に注入されるのです。また、輸血に用いられた血液の中にウイルスが混入していると、血液の中にウイルスを注射することになります。

たつても空気中に浮遊しているため、ある程度離れた人にも感染します。しばしば空気感染と呼ばれるのですが、一方大きな飛沫で感染するものがあり、この場合にはせいぜい二メートルしか飛びませんので、これを飛沫感染と呼んでいます。大きな騒動を引き起こしたSARSは大きな飛沫による「飛沫感染」です。

直接吸い込まなくても、風邪のウイルスやSARSウイルスは手に付着し、その手で鼻、口、目などに触れることによって粘膜感染を起こす場合も少なくないので、風邪やインフルエンザの予防として、外出から帰ったとき、「手を洗いなさい！」というのはこのためです。

消化器の感染

消化器感染を起こすウイルスの一つにポリオウイルスがあります。このウイルスは腸内ウイルスのグループに入れられ、糞便などに排出されたウイルスが口から入り込み、腸管で増殖します。ときに神経を伝わって脊髄に運ばれることがあります。このときには、運動を司る脊髄の神経細胞で増殖し始め、その細胞は破壊されてしまいます。これがポリオの患者に見られる神経麻痺なのです。

同じ呼吸器感染でも、はしかとインフルエンザには実は大きな違いがあります。インフルエンザウイルスは呼吸器で増え、血液には入り込むことはありません。ウイルスが増殖するのは呼吸器だけです。しかし、はしかウイルスは呼吸器で増殖したのち、血液に入り込み、リンパ節から皮膚まで、全身に広がります。そこがインフルエンザは局所性感染症、はしかは全身性感染症と呼ばれる所以です。ただし最近問題となっている鳥インフルエンザウイルスのように毒性の強い場合は例外で、このウイルスは血液に入り込む全身性感染をおこします。十分注意が必要です。

和光市の貴重な古民家

旧富岡家住宅の復元工事は進む

旧富岡家住宅は十七世紀の元禄時代以前（約二百八十年前）の建築とされ、大河直躬千葉大学名誉教授によれば、関東の農家として最大の規模をもち、県内で最古の可能性があるという。

富岡家住宅は和光市新倉二丁目3179に所在していたが、東京外環自動車道の建設のため移転された。昭和63年、和光市の配慮によって解体、部材の保管が行われ、平成15年市指定文化財となる。復元が決まってから、市民との意見交換、古民家

転を余儀なくされた。歴史的な価値が明らかになると、現地で保存できなかったことは掛け替えのない損失だった。道路の工事は実にうらめしい。目33番地で復元工事が始められ、今年八月ついに上棟式を迎えた。

- ① 富岡家住宅の原風景
- ② 復元工事は進む



平成17年秋季企画展
関東争乱と武将難波田善銀
切り絵展

難波田城資料館常設展示室で上映中の「関東争乱と武将難波田善銀」で使用した切り絵の展示会
 切り絵作家・新村清比古氏が描く戦国の風景

会期 平成17年10月15日（土）～12月18日（日）
 開館時間 午前9時～午後5時 休館日 月曜日・祝日の翌日
 会場 難波田城資料館 特別展示室 入館無料

富士見市立難波田城資料館
 〒354-0004 埼玉県富士見市下南郷 568-1
 TEL 049 (252) 4664 FAX 049 (252) 4665

石に刻まれた郷土
 歴史をつたえる石、そしてカッパの石像

平成17年10月13日（木）～11月14日（月）
 休館日 毎週月曜日（ただし11月14日の県民の日は開館）・11月4日（金）
 開館時間 午前9時30分～午後4時30分 入館無料

志木市立郷土資料館
 志木市中宮町3-1-2
 TEL/FAX 048-471-0073

特定非営利活動法人
NPO「市民フォーラム」

この法人は地域住民と行政に対して取材活動を行い、報道によって市民の公共参加を推進し、地域内のメディア事業を行って、市民のコミュニケーションを向上させることを目的としています。

地域情報紙「市民プレス」

編集部 原宛にどうぞ

090(3048)5502

第17回企画展
広沢郷の時代
 中世の朝霞を探る

「武蔵武士の活躍と広沢氏」
 第1期 10月15日（土）午後2時～5時30分
 第2期 10月22日（土）午後2時～5時30分
 第3期 10月29日（土）午後2時～5時30分
 第4期 11月5日（土）午後2時～5時30分
 第5期 11月12日（土）午後2時～5時30分
 第6期 11月19日（土）午後2時～5時30分
 第7期 11月26日（土）午後2時～5時30分
 第8期 12月3日（土）午後2時～5時30分
 第9期 12月10日（土）午後2時～5時30分
 第10期 12月17日（土）午後2時～5時30分
 第11期 12月24日（土）午後2時～5時30分
 第12期 12月31日（土）午後2時～5時30分

「戦国期の江戸太田氏の動向」
 第1期 11月10日（土）午後2時～5時30分
 第2期 11月17日（土）午後2時～5時30分
 第3期 11月24日（土）午後2時～5時30分
 第4期 12月1日（土）午後2時～5時30分
 第5期 12月8日（土）午後2時～5時30分
 第6期 12月15日（土）午後2時～5時30分
 第7期 12月22日（土）午後2時～5時30分
 第8期 12月29日（土）午後2時～5時30分
 第9期 1月5日（土）午後2時～5時30分
 第10期 1月12日（土）午後2時～5時30分
 第11期 1月19日（土）午後2時～5時30分
 第12期 1月26日（土）午後2時～5時30分

「親子で拓本をとってみよう」
 第1期 10月15日（土）午後2時～5時30分
 第2期 10月22日（土）午後2時～5時30分
 第3期 10月29日（土）午後2時～5時30分
 第4期 11月5日（土）午後2時～5時30分
 第5期 11月12日（土）午後2時～5時30分
 第6期 11月19日（土）午後2時～5時30分
 第7期 11月26日（土）午後2時～5時30分
 第8期 12月3日（土）午後2時～5時30分
 第9期 12月10日（土）午後2時～5時30分
 第10期 12月17日（土）午後2時～5時30分
 第11期 12月24日（土）午後2時～5時30分
 第12期 12月31日（土）午後2時～5時30分

平成17年
10月8日（土）～11月23日（木）
 午前9時～午後5時 入館無料

朝霞市博物館
 〒351-0007 埼玉県朝霞市2丁目22番22号
 TEL 048-469-2205 FAX 048-469-0079